

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立五町田小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や研修について内容を見直した結果、職員の働き方改革に対する意識も高まりつつある。また、他の連携機関との連携・協力により担任が一人で抱え込まない体制づくりができ、個々の職員の負担軽減につなげることができた。</li> <li>・「学び合い」を活用した授業づくりや基礎学力の定着のために全職員で取り組んだことで、成果も見られた。NIE教育の取組で、自分の考えを書くことにも少しずつ抵抗が少なくなってきた。</li> <li>・生徒指導や安全指導の徹底により児童は安全で落ち着いた学校生活を送ることができた。さらに、SSTやグループエンカウンター研修を深め、日常の教育相談を丁寧に行う。</li> <li>・体力・運動能力の向上に向けて環境整備を進める。また、冬場の手洗いうがいについては家庭との連携を図る。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>かしこく やさしく たくましい</p> <p>①かしこい子(主体的に学び、集団の中で生き生きと活動できる子ども) ②やさしい子(自分で考え行動し、他者と協力できる子ども) ③たくましい子(心も体も健康で粘り強い子ども)</p>
3 本年度の重点目標	<p>①全ての子どもが「活動する喜び」「分かる・できる喜び」「教え合い・学び合う喜び」「追求・工夫する喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。</p> <p>②全ての子どもに「関わり合いの中で生き生きと学ぶ」機会を作り、「学校に行きたい」と思える期待感の向上を図る。</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・学習状況調査の採点を通じて、課題や手立てを出し合い、共有化を図りマイプランをたて検証する場を設ける。	A	・学力向上のマイプランをたて、実践できた教師が93.3%で、学び合いの場の設定や家庭学習の取り組みせ方も肯定評価が100%だった。	A	・職員アンケートも肯定評価が増加して、より充実してきていると思われる。
	○学び合いを取り入れたわかりやすい授業の実践	○「授業がわかりやすい」「進んで学び合いができた」と回答した児童が90%以上。	・授業の中で、自分の考えを持つ場や学び合いの場を設定する。 ・思考を助ける掲示を活用したり、発問を工夫して、学習内容の理解を図る。	A	・「授業はわかりやすいですか」の項目は、94.5%で、保護者も「子どもがふだんの授業を理解していると思う」が89.4%で学力向上に取り組んだ成果が表れていた。	A	・自分の考えを持ったり、学び愛の場の設定などの熱心な取組が、「授業がわかりやすい」となり、子どもたちの意欲が高まっている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを通して実践したいと回答した児童が90%以上	・年に2回アンケートを実施 ・道徳の授業・体験活動の充実 ・人権集会	A	・保護者へのふれあい道徳の授業公開は実施した。 ・第2回目の学校評価児童用アンケートの結果は97.0%で前回より向上した。 ・人権集会は子ども心に響く内容を行うことができた。	A	・妥当である
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見、早期対応 ○問題行動等について職員間での情報共有率100%をめざす。 ○QUTテストにおいて1学期よりも2学期は満足群を増やし、要支援群を減らす。 ○「学校が楽しい」という児童の割合が90%以上	・日常の観察を心がけ、子どもの小さなつづみやきを見逃さないようにする。また、子どもが相談しやすい雰囲気作りを行う。 ・月一回の仲良しアンケートや年2回のQUTテストを行う ・週に1回児童情報共有会を行う。 ・子供同士で認め合うような学級づくりに努める。	A	・1月1回の仲良しアンケートで子どもの実態を把握し、早期に対応してきた。職員間で情報共有も継続して行ってきた。 ・1回目のQUT研修会で考えた具体的方策に取り組んだ成果2回目のQUTアンケートの結果に反映され、向上したところもある。しかし、要支援群については、一瞬に減ったとは言えない。 ・キラリの本の取り組みや、帯りの会のキラキラ発表などで、友達のように気づけるようになってきている。 ・第2回目の学校評価児童用アンケート「学校が楽しい」の項目で児童は92.5%、保護者は94.0%。	A	・児童、保護者共に「学校は楽しい」に高評価であることは、地域住民としても大変嬉しい。ただ、「困ったときに、友達や先生に相談しやすいですか」という問いに肯定的でなかった子どもたちを支える体制がさらに整えば、より学校が楽しくなる。
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」と回答する児童が90%以上 ◎めあてをもって実践しようとする児童を90%以上	・キャリアパスポートの活用を図る。 ・体験活動では児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・自分の学習や生活にめあてを持って日々取り組む努力を積み重ねることで、2回目の学校評価児童用アンケートは、94.5%で前回より向上した。 ・キャリアパスポートを活用し、自分の行動を振り返って自らの学びや成長に気づかせることができた。さらに「将来の夢や目標」に向けて、今後も計画的に継続して取り組んでいく。	A	・キャリアパスポートが有効に実施されてよかった。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「生活・家庭学習チェックシート」を活用し、生活習慣に関する項目が「できた」と答える児童が90%以上	・「生活・家庭学習チェックシート」の①決めた時刻までに起きる ②しっかり朝ごはんを食べる ③歯みがきをきちんとする ④テレビやゲームは、決めた時間だけする ⑤決めた時刻までにふとんに入る 項目を意識して生活をさせ、自分の生活を振り返らせる。 ・「生活・家庭学習チェックシート」の意識づけを図るとともに、結果について情報を発信し、保護者との連携を図る。	B	・①②③については、90%以上達成できている。④については、チェックシート記入期間は、意識付けができて、92%達成しているが、保護者アンケートは、62.7%で普段の生活の中では十分にできていないことが窺える。長期的に継続して、児童、保護者に意識付けを図ることが課題である。⑤については、記入期間においても87%であった。時刻の設定が低中高9時・9時半・10時となっているが、共働き家庭において夜の時間が遅かったり、社会体育関係で帰宅が遅くなったりするなど、達成するのが難しいところが多かったようである。	B	・様々な事情で就寝時刻が遅くなり守り切れないうちがあると思うが、睡眠時間の確保が子どもたちの成長に大きな役割を果たすことを、引き続き子どもたち自身と保護者に伝えていくことは大切である。 ・テレビやゲームの時間の決め方など、家での過ごし方も含めて、親子でしっかり話し合う必要がある。
	○体力づくり	○体育やスポーツチャレンジなど、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が90%以上	・体育学習の充実を図り、体育の時間やマラソン大会などにおける自己の記録向上に向けての意欲を高める。 ・佐賀県スポーツチャレンジに参加することを通して、運動の楽しさや競争することの楽しさを感じさせる。	A	・体育やスポーツチャレンジで、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が98.0% ・マラソン大会に向けて、タイムを伸ばすように目標を持たせたり、マラソンカードを使いマイペースマラソンに取り組んだりすることで、自分の記録を伸ばそうと頑張る児童が増えた。	A	・妥当である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日・第3水曜日)の推進	B	・全職員の時間外勤務時間の平均31.2時間ではあるが、上限を超えている職員もいる。校務分掌の平準化をさらに進めたい。 ・運動会が午前中開催だったので、午後は全職員年休を取った。また、年末・年始は、勤務者(当番)を配置しないで、年休を取るよう推進した。	B	・妥当である。
	○計画的・効率的な業務の遂行	○「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が90%以上を目指す。	・学校行事やプロジェクトの活動を見直し・精選を行い、年間計画にもとづき、見直しをもって業務に取り組む。 ・校内研修を見直し回数を年間2回減らす。	B	・「計画的・効率的に業務を進めている」と答えた職員の割合が88.9%で下がった。1学期前半の行事が9月～11月に集中し、感染症対策も含め、業務改善が進められなかった。 ・出張等は減少したものの児童対応のケース会議が増えた。	B	・本年度は異例の対応の中、方策を探りながら教育実践に当たられたと思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議や研修について見直しているものの、コロナ感染症対応による職員の負担感、行事の変更等で時間外勤務も前年度と比べてあまり変わらなかった。また、児童対応の事案については、他の外部機関との連携・協力により担任が一人で抱え込まない体制が整い、負担軽減につなげることができた。</li> <li>・コロナ禍の中で「学び合い」を活用した授業づくりができず、前半は一人学びの時間を設定したことから、自分の考えを書くことに対して少しずつ抵抗が少なくなってきた。基礎学力の定着のために全職員で取り組んだことで、学力向上につながった。引き続き、学校が一つになってこの実践を行っていく。</li> <li>・キャリアパスポートが効果的にじっしされてよかった。次年度も学年相応に丁寧に推進していく。</li> <li>・児童は安全で落ち着いた学校生活を送ることができた。さらに、自己有用感を高め、人付き合いの仕方や自分の気持ちの伝え方等を学習するためのSSTを取り入れると共に、日常の教育相談を丁寧に行っていく。</li> </ul>